

株式会社エフエムみしま・かんなみ

放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 30 年 5 月 31 日 (木)
2. 開催場所 三島市一番町 2-29
三島商工会議所 4 階 会議室 E
3. 委員の出席
 - ①委員の総数 6 名
 - ②出席委員数 5 名
 - ③出席委員の氏名
岡山 一夫、中山 勝善、一藤木 秀光、藤吉 智子、白井由美子
 - ④放送事業者側出席者
杉山 喜徳 (代表取締役)、遠藤 真里 (総務部)
4. 議 題
 - 第 1 号議案 ボイス・キューの防災情報速報体制について
 - 第 2 号議案 次回開催日について 他
5. 議事の概要 ボイス・キューの防災情報速報体制について

報告内容

ボイス・キューは有事の際の防災・減災情報の発信基地としての使命を第一に掲げ、きょうで丸21年となりました。報道部門を持たず、また、限られた陣容の中で、与えられた使命をどう果たしていくかが常なる課題となっています。

そうした中で、2015年10月に「防災情報 自動音声速報システム」(アイダス社/東京)をいち早く導入し、地震発生や気象警報の発令等について、県域局に優るとも劣らない速報体制を確立しました。これは、第一報の発信をこのシステムに任せ、局としては次の行動に専念するのが第一目的です。

しかし、もしもの時、どれだけのスタッフが出社できるかは全くの未知数であり、限られた人数を想定しての対応が求められます。そこで、今回、文字入力した原稿を即座に音声合成で読み上げる“AIアナウンサー”を導入しました。これはエフエム和歌山が開発したもので、人工知能サービス「アマゾン・ポリール」を活用して放送を行う「ダ・カーポ」という名前が付いたシステムです。クラウドを利用するため、文字入力要員は出社が必要条件ではありません。最悪の場合でも、音声出しをするスタッフが一人だけ出社していれば、社外からの文字入力

により、アナウンス要員無しでも情報発信ができること
になります。このシステムは、日本語の文字情報を瞬時に
英語等に自動翻訳して、日本語アナウンスと同じように
読み上げるため、エリア内の外国人の方々への情報発信
にも威力を発揮します。きょうはその音源を交え
「ダ・カーポ」をご紹介します。

6. 審議内容

第1号議案講評

- アナウンサーが不在でも情報発信ができる AI アナウンサーシステムには驚いた。
 - 感情や笑いは表現できないようだし、AI アナウンサーには硬いイメージを持った。しかし、「伝える」という視点では、悪条件下の手段として大いに有効だと思った。
 - AI アナウンサーをどのように活用していくかは、今後の課題だろう。ただ、現状に満足せず、より良いものを求めるボイス・キューの姿勢は大いに評価できる。
 - アクセントに違和感はあるが、性能はどんどん良くなっていくだろう。
 - 非常時だけでなく、耳慣れのために通常放送でも使っていくとの話だったが、その一例として紹介された AI アナウンサーによる「歳時記」は、伝え方として斬新だった。
 - 人手不足解消に役立ちそう。交通情報や天気予報でも使えるのでは？
- ～といった意見がありました。

第2号議案 次回番組審議会の開催日程 平成30年7月を予定

- 7. 審議機関の答申又は改善に対してとった措置及びその年月日
特になし
- 8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における
公表の内容、方法及び年月日
 - ① 議事録などをファイルとして供覧
 - ② エフエムみしま・かんなみの
6/1（金）「Come Come FLYday」
6/2（土）「WEEKEND ナチュラル♪」の時間内で放送